

ハ一モ二一
上 條 小



校長室だより No. 5
(平成27年6月15日)



泉大津市立上條小学校
校長 松田 義広

<http://izumiotsu-ed.jp/e-kamijo/hp/>

ホームページ 連日、更新中！ 閲覧数も急上昇！

今年の梅雨は、真夏を思わせる日や肌寒く感じる日など、体調を維持するのが難しく、お休みをとる児童も多いです。

まもなく水泳学習も始まります。もし、体調がすぐれないときは、無理せずにプール学習を見学するようにしてください。お子様の「プールに入りたい」という気持ちは理解できますが、そこは保護者の方が、気持ちを汲み過ぎず、判断をしてあげてください。

くれぐれも体調には、お気をつけください。

池田小事件から14年『安全な学校』をめざして

6月8日は、教職員にとっては忘れてはいけない日となっています。2001年6月8日午前10時過ぎ、大阪教育大学附属池田小学校に包丁を持った男が乱入し、児童8人が死亡、教師を含む15人が重軽傷を負った事件の発生した日です。8日の職員朝礼で、教頭から教職員に、「児童一人ひとりの『命の重み』を心に刻み、日頃からの『教員の安全に対する意識の高さ』が重要である」と改めて伝えました。



また、上條小では、8日、3・4年生の自転車を使った交通安全教室を行いました。交通事故も一瞬にして、人を不幸に変えてしまいます。時には、命にかかわる事態にもなりかねず、家族皆の気持ちが、耐え難い深い悲しみに包まれます。

元気で登校した子どもたちが、元気な姿で帰宅するという当然と思える毎日が送れるよう、関係機関の協力をえて、いっそう推進してまいります。

授業参観、学年・学級懇談へのご来校、ありがとうございました

6月9日、今年度2回目の授業参観を行ないました。

保護者の皆様におかれましては、お忙しい中、参観いただきまして有難うございます。幸い朝からの雨もあがり、お子様が真剣なまなざしで授業に取り組んでいる姿をご覧いただけただけではないでしょうか。担任も、参観をめざして準備してきました。4月の参観に比べて、子ども達とのやりとりもスムーズになっていたのではと思います。いかがだったでしょうか？

また、学年・学級懇談や林間説明会で十分な情報や説明はあったでしょうか？今後も、保護者の皆様の交流の場であると共に、疑問や不安に応えられるような学年・学級懇談会であり、宿泊説明会でありたいと思っています。

7月には、個人懇談を予定しております。成長したお子様の学校の様子や今後お子様がより成長するための課題をお伝えできる実りある懇談に向けて準備を進めます。



(授業参観の様子は、上條小学校ホームページの『学校の出来事』で全クラス掲載しています。)

上條小学校ホームページについて

子ども達の学校での様子を、『学校の出来事』に配慮の上、掲載しております。今後、いっそう子ども達の様子がわかるよう充実を図りたいと思っています。もし、お子様の顔写真等の掲載に配慮が必要な場合は、連絡帳で学級担任までお申し出ください。

きめ細やかな学習指導を

今年度、全学年の算数に少人数指導の専科教員を、また、4・5年生の国語に専科教員を配置することにより、今まで以上に魅力ある・わかりやすい授業に取り組んでいます。さらに、5・6年生の外国語活動は、従来からの英語指導員に加え中学校英語教員による授業を行い、英語に楽しく興味を持ってもらえるように取り組んでいます。

この取り組みよって、不得意な教科にならないように、学年間・校種間段差解消になればと思っています。もちろん学力向上につながることを願っています。

子ども達の中には、休み時間を惜しんで専科教員を訪ねています。担任とは違う教員とのコミュニケーションを楽しみながら、学ぶ機会として活用していただければ有難いことです。



校外学習で学ぶこと

5日と12日 2年生町探検、10日 支援学級遠足、11日 4年生社会見学を行ないました。お弁当等の用意をしていただく場合もあり、ご協力に感謝しております。

町探検では、夜店や祭礼などで知っていた助松神社を地域の文化財として知ることができました。支援学級遠足では、他の小学校の子ども達とふれあいながら蜻蛉池公園の遊具で思い切り体を動かすことができました。社会見学では、授業で習う「クリーンセンター」や「下水処理場」を実際に見学できました。

校外学習では、本来の「めあて」の他にも、社会のマナーや交通ルールなど、多くのことが学べます。キャリア教育の観点からも重要な位置づけとなります。

【上條今昔話】 上條小学校で「疎開(そかい)されていた方のお話」

昭和19年(1944)当時、文部省(今の文部科学省)の指示で選定された疎開先の小学校へ原則として、5・6年生が全員移住するケースを『集団疎開』とっておりました。

しかし、例外的に学童の健康状態、その他家庭の事情で、旧知の家へ子どもと保護者が移住するのを『縁故疎開』と言っておまして、私の場合は、これに該当します。確か、上條小学校のクラスでは、私一人でした。

お世話になった疎開先のお宅の方は、現在、遠方へ転居ないし亡くなっておられます。

私一人の転校生でありましたが、同級生と徐々に馴染み、今で言う『いじめ』のようなものはなく、一ヶ月もすれば年来の友という感じになりました。まあ、子どものことですから、小さな『ケンカ』はしましたが、今思うと実に心根のやさしい仲間でした。

むしろ親しい仲間と、海岸近くの住居から国道(今の大阪府道204号堺阪南線)を横切り、季節折々の作物の生い茂る畑を横に見ながら登下校するのが何よりの楽しみでした。

先生方には、のびのびとご指導いただいた覚えがあります。

体育の時間、助松の浜で体力の続く限り泳いだことを思い出しております。

いずれにせよ学童疎開は、私にとっては幸せな2年間でした。

疎開が解かれた戦後は、中学の受験で大阪市内の学校へ進学しました。

(約70年前、上條小学校に疎開されていた石川博志様より頂戴したお手紙の一部です。石川様には、掲載のお許しを得ています。)

今年で第2次世界大戦が終わって70年の節目となります。先の戦争では、子ども達も多く犠牲になるなど戦争の悲惨さは言うまでもありません。

しかし、その中であって、お手紙に書かれているように、2年間を過ごした上條小学校のことを、今なお懐かしく思っただけのお気持ちには、心温まります。そして、今も変わらない地域の皆様の上條小学校への熱い思いは、脈々と続いているように思います。